

平成30年度 石川県教育委員会・中能登町教育委員会指定
いしかわ道徳教育推進事業 道徳教育推進校
「人と地域を生かした道徳教育講座」

研究主題

主体的に考え、学び合い、深める児童の育成 ～多面的・多角的に考えるための指導の工夫～

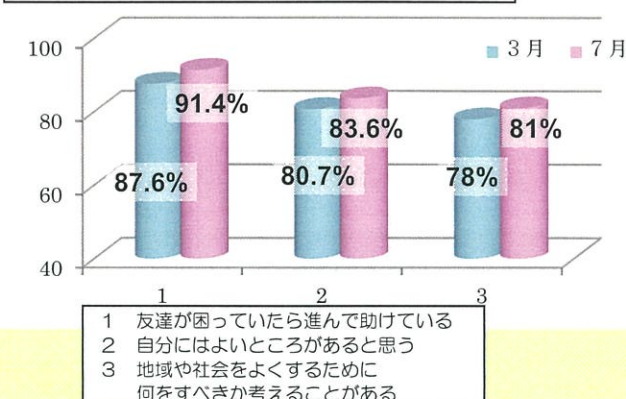


平成30年10月3日（水）

中能登町立鹿島小学校

Check・研究の検証

①児童の意識の変容（道徳アンケート）



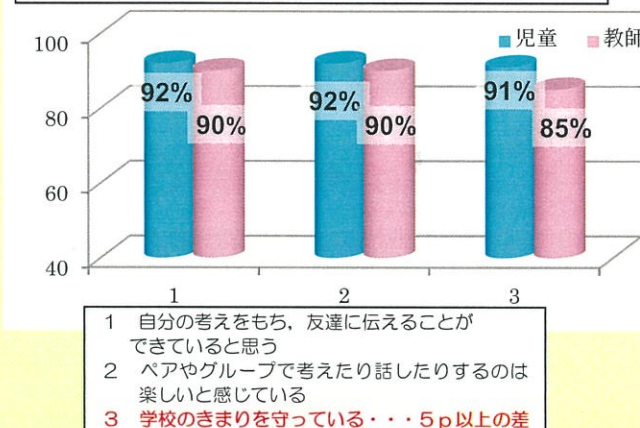
③自己の変容に気付く振り返り

4年生
遠くへ行くときに、バスを待つときに、自分にはよいところがあると思う。地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある。

5年生
地域のために働くことは、相手や自分のためであって、社会のためでもある。自分にはよいところがあると思う。地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある。

6年生
今日は学習したことで、考えたこと。友達の話を聞いて感じたこと、わかったこと。これからやりたいこと、を言いました。

②児童・教師の捉えの比較（道徳アンケート）



【教師の姿】

○教師アンケートの「授業でペアやグループ活動を意識して設定している」「授業で、学びを自覚する書く場を設定している」の項目では100%を達成しており、鹿島小の道徳の授業スタイルが確立し、学校教育全体で道徳教育に取り組むことができた。

○全職員で道徳の共通実践と、模擬授業・先行授業・研究授業・授業整理会・研究だよりでの共通理解という、一連の流れでの実践を積み重ねることを通して、授業改善につなげることができた。

△児童の見取りを生かした授業の実践が不十分だった。

【児童の姿】

○昨年度末に実施した道徳アンケートの結果が低かった項目では、約3ポイントの改善が見られた。

また、道徳の授業で、ペアやグループでの学び合いを楽しんでいる児童の割合も90%以上と高い結果となった。

○ゴールの姿を想定した課題を設定し、深める発問を3つ以上準備して授業を展開することで、多面的・多角的に考える児童の姿につながった。

△道徳アンケート「学校のきまりを守っている」の項目では、児童と教師の捉えに5ポイントの差があり、児童の道徳的实践力を高めていく必要がある。

Action：今後に向けて

☆多面的・多角的に考え、深い学びにつなげるために、課題設定や発問の工夫ができるよう、十分な教材研究と更なる授業研究を重ねていく。

☆見取りを生かした授業展開を工夫し、指導と評価の一体化についての理解を深めていく。

☆学校と家庭・地域社会が一体となって、児童の道徳性を高める取組を継続的にやっていく。